2009年度 修了

脳損傷者における認知機能障害に対するawarenessの検討

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
発達・福祉臨床クラスター
鈴木　則夫

脳損傷者における認知機能障害に対するawarenessについて検討した。自らの認知機能障害に対する気付きをともなった認知過程という意味でawarenessという用語を使用した。

研究1においては，音声言語表出と聴覚言語理解に障害を持つ失語症候群21例と実行機能障害と記憶障害を合併する前頭葉症候群39例を対象としてawarenessの傾向を調査した。結果，失語症候群では音声言語表出障害に対するawarenessより聴覚言語理解障害に対するawarenessの方が有意に損なわれやすい傾向をしめした。前頭葉症候群においては記憶障害に対するawarenessより実行機能障害に対するawarenessの方が損なわれやすい傾向がみられた。awarenessは知能との関連はみられなかったが，実行機能障害においてのみ障害重症度と関連がみられ，実行機能障害が重度であるほどそのawarenessも障害されやすい傾向を示した。

研究2においては，3症例のawarenessの変化，認知機能の改善，能力障害の改善，患者心理の変化等，awarenessを含む患者全体像の経時的変化を観察し，awarenessの状態と治療的介入のあり方について考察した。